

土	1	仏滅
日	2	大安 休日営業16時まで
月	3	赤口
火	4	先勝
水	5	友引
木	6	先負
金	7	仏滅
土	8	大安
日	9	赤口 定休日
月	10	友引
火	11	先負
水	12	仏滅
木	13	大安
金	14	赤口 プチ茶会
土	15	先勝 プチ茶会
日	16	友引 定休日
月	17	先負・敬老の日 定休日
火	18	仏滅
水	19	大安
木	20	赤口
金	21	先勝
土	22	友引
日	23	先負・秋分の日 定休日
月	24	仏滅 定休日
火	25	大安
水	26	赤口
木	27	先勝
金	28	友引
土	29	先負
日	30	仏滅 定休日

長月のプチ茶会のご案内



同事開催
2階ギャラリー
年に一度の大蔵出し市



月刊
いつもの



(題字・三輪休和)

107号

2018年9月発行

プチ茶会ではこの茶碗を使用させていただきます

長入 東陽坊写茶碗



もとより長次郎の作と伝えられるものは数々ある。その中には特に利休の好みで焼いたものもたくさんある。この利休好みの茶碗の中でことさらにできのよいのを七つ選んで、これを七種(大黒・鉢開・東陽坊・早船・検校・臨濟・木守)と称されている。しかしながら、この七種はむろん利休没後において誰か宗匠連が定めたものである。利休が必ずしも生前に七種と定めて、もう長次郎にはこれっきり好いものはいないといふと極めた訳ではあるまい。

京都美術青年会 第九号

月刊ギャラリーさん 第33回 出会いふれあい 全国茶の湯紀行

度会郡玉城町田丸【朝日新聞社創設・社長 村山龍平記念館】のご紹介です

村山龍平は嘉永3年(1850)、紀州徳川藩の支藩、伊勢田丸の城下(現在の三重県度会郡玉城町)で藩士村山守雄の長男に生まれた。父守雄は版籍奉還後、田丸城下を去り、明治4年(1871)、大阪に移り住み龍平は、翌5年に西洋雑貨を商う「田丸屋」を開業し、数年後には店を大きくして「玉泉舎」と改めた。西南の役を境に世情も落ち着き始め、明治12年(1879)1月、龍平29歳の時に朝日新聞を創刊し以後、共同経営者の上野理一らとともに発展に尽力し、日本を代表する新聞に育てた。美術にも深い関心を寄せ岡倉天心達の主宰する美術雑誌『國華』の経営も引き受けた。開国後、多くの価値ある美術品が海外へと流出し始めると、それを食い止めたいという思いから美術品の蒐集に力を注いだ。刀剣にはじまり、仏画、墨蹟、古筆などの名品の多くを大正に入るまでに集めた。この記念館は、玉城町がこうした村山の功績を讃える施設の建設を没後50周年を迎えるにあたって計画し、村山の子孫からの多額の寄付を受け、昭和58年(1983年)に開館した。平成5年(1993年)に村山が集めた美術品を収蔵・展示する香雪美術館から45点を厳選して展示、また2015年には日本の高校野球発展の礎となった夏の甲子園大会創設の功績が讃えられ、野球殿堂入りしたことを記念して展示も行った。

-香雪美術館・村山龍平記念館より-



村山龍平記念館



大賀ハスと田丸城跡

大賀ハス(蓮)とは、昭和26年、千葉市の東京大学農学部検見川厚生農場でハス博士といわれた故大賀一郎博士が、縄文時代に咲いていた古代ハスの種三粒を発見し、そのうちの一粒の開花に成功したものとされている。この大賀ハスは、平成の初め、故加藤正文氏から寄贈された大賀ハスの種、蓮根を水槽に入れて栽培し開花したもので、そのハスを田丸城築城670周年記念として内堀に移植。

神戸市の本館に次ぐ2館目の美術館として、「中之島香雪美術館」を2018年3月21日にオープン

中之島香雪美術館の開館記念展「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」は、朝日新聞社の創業者・村山龍平(1850～1933)が収集した美術品の中から、約300点を選び、1年間5期にわたって紹介しています。館所蔵品は重要文化財19点、重要美術品23点を数え、時代や作家を代表する名品も多くあります。これらの所蔵品に、村山家から寄託された美術品を加えた「村山コレクション」は、これまでまとまった形で紹介されたことはなく、今回が初めて全容を公開する機会となります。オープニングを飾った第I期展「美術を愛して」、第II期展「美しき金に心をよせて」に続き、第III期展「茶の道にみちびかれ」を、7月7日(土)から開催。村山が収集し茶会で用いた茶道具約80点を紹介します。

-香雪美術館より-



2018年10月6日～12月2日

「珠玉の村山コレクション」
「愛し、守り、伝えた」
「ほとけの世界にたゆたう」

田丸が生んだ文化人「金森得水」ご紹介

金森得水は、天明6年(1786年)田丸生まれ紀州藩田丸城主久野家老職を務める。名は長興、通称は仲、別号に琴屋叟・玄甲舎。文武両道に通じ、茶事に精通し、且つ陶器の鑑定にも定評があった。著書に「本朝陶器攷證」「古今茶話五十巻」「習事十三ヶ条」などがある。表千家吸江齋・碌々齋に師事。慶応元年(1865)歿、80才



金森得水竹茶杓

「山ノ色」この茶杓は1861年 辛酉(かのとり)11月6日得水76歳の作



本朝陶器攷證



古物



¥7,000



古物



¥6,000



平安香雲



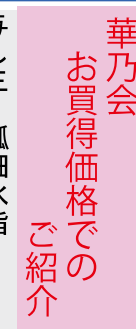
¥41,000→¥28,700



楽齋



¥28,100→¥19,000



与し三



お買得価格でのご紹介



手塚祥堂



¥56,600→¥39,000

編集の窓



水引草

photo by S,A

かひなしや水引草の花ざかり
正岡子規

水引草は、ミズヒキ科の多年草。晩夏、日蔭などに咲く細長い花序に赤い小花が下から上から見ると赤く見え、下から見ると白く見える様子を紅白の水引に見立てての命名と言われている。ちなみに白花だけの種はギンミズヒキと呼ばれる。また黄色の花のキンミズヒキはバラ科の植物。

茶花としてもよく使われ、文芸の世界では水引や水引の花が秋の季語として欠かさないらしい。

ギャラリー森田ホームページ

http://www.gallery-morita.co.jp/
gallery morita スタッフぶろぐ
http://ameblo.jp/gallerymorita/
https://www.instagram.com/gallery.morita/



Instagram
始めました

■ご不要になりましたお道具
など どうぞお売り下さい。

月刊「ぎやらいさん」
編集プロジェクト

ご案内



淡交8月号掲載の
花ふきん
中川政七商店製
入荷しました

お客様から
いただいた
鷺草が無事に
花を咲かせて
くれました。

